

「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

マイペンライ 通信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会
(略称：大阪マイペンライ)

http://cwoweb2.bai.ne.jp/osaka_maipenrai/index.html

2012年9月15日

No. 88

TEL 072-645-7772

(森代表事務所)

FAX 06-6581-8536

(部落解放同盟大阪府連)

事務局 090-3948-8372 (稲葉)

Jge17901@cw2.bai.ne.jp

招聘研修：タイのスタッフ2名が各地で交流

今年の招聘研修は第20回を迎え、タイからシーカーアジア財団(SAF)のタブラニー・ポークランさんとチャイヤナン・チャンタマニーセーンさん、同行・通訳は松尾久美さん(SAF)が各地で交流しました。

招聘の期間は6月30日～7月14日で、受入いただいた組織は、部落解放同盟大阪府連は日之出支部、大阪教組は摂津市教組、自治労大阪府本部は豊能町職と大阪市職民生支部です。

多文化共生セミナー

7月12日、PLP会館4階で研修交流の報告会として多文化共生セミナーを開催しました。

セミナーには受け入れた組織の代表の方々も含め約90名の参加があり、現地のNGOの活動紹介と今回の研修・交流の感想が報告がありました。

皆さんのご協力に深く感謝いたします。

(2頁からスタッフの報告掲載)



大阪からタイへ...

スタディツアーのお誘い

子どもたちが、NGOのスタッフがあなたを待っています.....

2012年12月9日(日)夜～16日(日)早朝

西タイ(ターク県ターソンヤン郡)・バンコクでの交流

今年で第18回になるスタディツアーを募集します。大阪マイペンライは、アジアの人々との顔と顔の見える交流を進めてきました。その活動の一つが、「アジアに学ぶスタディツアー」です。バンコクのスラム、タイの農村や少数山岳民族の村などでは絵本や教科書も乏しく、学びたくても学べない子どもたちの実態など、どの地域も日本の「豊かさ」では考えられないほどの厳しい生活です。でも子どもたちの瞳は輝き、NGOスタッフはいきいきと活動しています。そんな子どもたちや村の人々、NGOスタッフと出会う旅に出かけませんか。ホームステイも予定されています。

西タイは、当会が「国際ボランティア貯金配分金」の助成を受けて「研修事業」や「学生寮の建設、保育園の改修事業」を行い、大阪市従市民生活支部も学生寮の建設支援などを行っており、事業実施後の状況を視察することを兼ねて訪れます。スタッフとの再開の旅でもあります。必ず、自分自身を突き動かすような体験に遭遇します。あなたの参加をお待ちしています。(実施要綱は2頁)

子どもツアーに5名が参加し、4年ぶり実施

子どもツアーを5名の参加を得て4年ぶりに実施しました。このツアーには、ツアーの経験豊富な山下晋平さんに同行をお願いし、現地では通訳・同行にシーカーアジア財団のギップさんをお願いし、8月5日無事帰国しました。(4頁から参加者感想文)

シーカー・アジア財団主催「公開保育・研修会」inメーソット報告

4年間の「国際ボランティア貯金寄附金」による研修事業を受け、シーカーアジア財団のスタッフが講師をつとめる研修会がメーソットで実施されました。松尾純代によるその報告です。(8頁)

タイ・スタディツアー実施要綱

日程 2012年12月9日(日)夜～16日(日)早朝
交流内容 ターク県ターソンヤン郡の村の保育園・学校等の視察、交流します。
タイ・バンコクのスラムを訪ね、活動するNGOと交流します。
「国際ボランティア貯金」寄附金配分事業の視察を兼ねています。
募集人員 10人
参加費 180,000円
(現地NGOへの支援金、当会の取り組むサワディ基金や絵本事業への協力金がふくまれます。)
主催 大阪マイペンライ
協力団体 シーカー・アジア財団(SAF) ドウアン・プラティープ財団(DPF)
申込締切 2012年 10月12日(金)
事前学習会 2回開催
申し込み先：大阪市港区波除4-1-37 HRCビル
部落解放同盟大阪府連気付 大阪マイペンライあて
FAX 06-6581-8536
問い合わせ：090-3948-8372 (稲葉事務局長)

多文化共生セミナーでの招聘スタッフの報告

招聘ゲストプロフィール

タイ (シーカーアジア財団(SAF))

・同行・通訳

松尾久美 さん(シーカーアジア財団国際部責任者)

・プラニー・ボークラーン さん(女性、ヤイ さん)

担当：スアンプルー保育園スタッフ

・チャイヤナン・チャンタマニーセーン さん(男性
ナン さん)

担当：パヤオ学生寮スタッフ



招聘研修を終えて

プラニー・ボークラーン (ヤイ、スアンプルー保育園スタッフ)

【研修から学んだこと】

保育現場より

各地での子ども園、保育所の現場から、子どもの自立度を高める保育に力を入れていることがわかった。タイでは、就学前の子どもについて、文字の読み書きや計算などを教えこもうとする姿勢がまだ強くある。しかし、こちらでは、年齢ごと、あるいはその瞬間ごとでの関心の所在をつかみ、子どもたちが常に興味を持ちながら、楽しみながら参加できるような取り組みがされている。このような環境作りがされていれば、子どもにとって保育所は常に楽しい場であり、毎日、通いたい場所となると思えた。これが、この時期の子どもたちにとって最も重要なことであると思う。

保護者との関係づくり

登所・お迎えの時の声掛けをはじめとして、保護者との関係づくりを大切にしていることがよくわかった。これら直接のコミュニケーション以外にも、掲示板、連絡ノート、ニュースレターなどで、毎日の子どもの様子(食事および生活)を保護者へうまく情報共有することで、保育所および先生への信頼関係を築く工夫がされているところに感心した。特に、連絡ノートについては、帰国後、さっそく使っていきたい。自身は2歳児を担当しており、保育所および家庭という子どもたちの二つの生活の場での様子を、保



育士と保護者が、共有できる重要なツールであり、これまでに不足していたコミュニケーションの方法だと感じた。これは帰国後、すぐに取り入れたい。

地域開発より

日の出地区の環境改善の経緯・取組みについては、自身の地域での経験と重なる部分も多く、たいへん関心をもちながら学ばせていただいた。日本での取組みの特徴は、国全体で組織化されていること、目標が明確であること、個人の意識の強さなど。これらにより、行政に対して強い影響力を持って、実際の変化を生みだしてきているように思えた。タイの中では、市民の人権に対する認識はあるものの、それを自分で守るといふ強い意識は乏しい。今回、当地区において、行政に対しての交渉から実際の成果を引き出してきた経緯を学んだことは、自分にとって大きな励みになった。帰国後、まずは地域の中で、この学びをシェアし、今後、どのように交渉を進めるべきか、どのように地域を発展させていくかを改めて話し合っていきたい。

高齢者、障がい者への取組み

いずれの地域でも、高齢者への就労支援、障がい者への自立支援などの試みを積極的にされていることがわかった。これは、社会的弱者となりがちな方々について、現状をしっかりと認識し、人権を保障していこうとする取組みと思える。



研修視察、ホームステイなど、お手配をして頂きました各組織の皆さんに、また、私たち現場のスタッフにとって、とても貴重で重要なプログラムを20年と続けてきてくださった大阪マイペンライの皆様にお礼を申し上げます。今後も引き続き、私たちスタッフがこのような機会をいただけるように、まずは、今回の学びを存分に生かし、活動に励んでまいります。ありがとうございました。

招聘研修を終えて

チャイヤナン・チャンタマニーセーン（ナン、パヤオ学生寮スタッフ）

【研修から学んだこと】

教育のありがた

子どもの参加をうながす指導方法を学ぶことができた。摂津教組さんでの小学校視察での算数の授業は、特に参考になった。教員の問いに対して口頭だけでなく、前に出て黒板に書くなど、いろいろな参加の仕方を工夫されていた。学生寮でも、学習指導をしているが、積極的に参加できない子どもたちが多く、一部の子どもたちが常に活躍する様な状況があった。より多くの子どもたちが無理なく参加できるように、教師のみなさんが努力している姿勢を学ばせてもらった。また、寮では、学習以外に多くの活動があり、それらについても、引っ込み思案で何事にも消極的な学生たちがいる。彼らが、より積極的にできるように、それぞれの特徴・長所に応じた役割分担、活動への参加の工夫をしていきたい。



異文化理解の重要性、人権について

柴島高校での部活動から違いを認める意識を学んだ。和太鼓などの日本文化、朝鮮、中国文化研究会、部落研究会などとの交流を通して、自身の文化を深く理解し、異文化を持つ他者に対して、しっかり提示することが誇りにつながること、また、自身の文化と同じく他者の文化にも理解を示し、尊重しあうことが重要であると再認識

できた。

少数民族にたいして、まだ蔑視の残るタイ社会の中でも自尊感情を持ちながら生きていけるよう、自分の担当する子どもたちに話をしていきたい。

大阪マイペンライ、各組織の皆さんには、あたたかく受入れて頂き、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2012 子どもツアー参加者感想文集 “また、行ってみたいタイ”

大阪マイペンライ～in タイ 7/29～8/5 「感想」

繁田大雅

この度は、このような行事に参加させて頂き、ありがとうございました。

僕は、この大阪マイペンライの話を母から聞いた時に、「あ、これは将来にためにも、自分のためにも、ぜひ行きたい！」と思い、参加しました。

説明会の時に“お湯が出ず、風呂も水で流す”とか“一番上が僕で大丈夫かな”とか色々あって正直行くのがいやでした。でもいざ行ってみるとそんな悩みも吹き飛びました。

山下さんもいたし、ギップさん、ガランさん、ナンさんが色々サポートしてくれたのでとても安心しました。

寮のみんなは、いつでもどこでも常に“笑顔”が絶えない子ども達がいっぱい居て、スゴいなぁと思いました。みんなスポーツをして、遊んで、タイの人達は基本的に運動が出来てびっくりしました。学校にも行ったり、畑仕事を手伝ったり、取りたての魚を食べたり、日本ではあまりできないコトを体験しました。

ホームステイでは村の家族の家にお邪魔して、2日間過ごしました。ここでは、野ブタや、イノシシやたぶんへびを食べました。

寮と村で2回交流会をしました。タイのみんなは盛り上げ上手で、とても2回とも楽しく出来ました。

スラム街も歩いて、正直、くさいと思いました。でも、こういった所で住んでいる人達もおる。という事も自分の目で見れてよかったです。バンコクでは久美さんのサポートもありとても楽しかったです。

この1週間のタイの旅は僕にとってスゴく濃く、大事な1週間になりました。本当にありがとうございました。この経験を生かして、これから先の人生を明るく、元気に過ごして、自分の夢に向かって頑張っていきたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

タイに行った感想

福原啓太

初めに、空港についたらちょっと、ドキドキしました。でも、飛行機に乗ると緊張がほぐれました。タイにつくとちょっと雲っていました。

シャンティー寮につくとナンさんと女の人と赤ちゃんに会いました。その赤ちゃんはとてもかわいかったです。そして、昼ごはんは、とても辛い中華めんのようなものでした。

そしてだいがはなれた学校にいきました。ここでは、セパタクローをいっしょにしました。そして、その学校で話したりしました。その後、シャンティー寮のみなさんとサッカーしました。とてもおもしろかったし、言葉はわからないけどジェスチャーとか英語とかで、わかりあえてよかったです。そして夕食のときは、みんながお肉とかおかしをくれて、とてもやさしいと思いました。そして寝るときは、みんなでトランプをしました。そしてみんなに大富豪を教えて、あそびました。その日は、結局1時くらいまで遊びました。



次の朝は6時30分ぐらいに起きたら、シャンティ寮の子は掃除をしていました。そしてその朝シャンティ寮の子とちょっとチェスをして、あそびました。その夜はお別れ会をしました。向こうの子はすごく盛り上がってくれてよかったです。

そして次の朝は、みんなと別れてから、ホームステイをしに行きました。現地の人みんな優しい人によかったです。犬もかわいかったし、そこにいる赤ちゃんもかわいかったです。あと山登りはとてもかこくで、これ以上いけないとゆう所までいきました。でも頂上は、めちゃくちゃきれいでした。登ってきたかいはあったなあと思いました。あとご飯とかも、イノシシとかいっぱい食べたしおいしかったです。あと体をあらうとき水があんなに冷たいとは思ってもしなかった。あとテレビも見て言葉は、わからなかったけどおもしろかった。寝るときは三人で寝ました。



そして次の朝、プレゼントをわたすとすごく喜んでくれてよかったです。そしてシャボン玉とか風せんとかで一しょに遊びました。おもしろかったです。あと向こうの子が遊んでいてその遊びにはお鳥を投げて遊んでいました。しかも投げているのは子供でびっくりした。あと戦っているニワトリの首から血がでていてかわいそうだと思った。そして夕方になると学校に行ってお別れ会をしました。そこに行くとシャンティ寮よりも人数が多くてびっくりした。しかも自分の住んでいた家の人とかいろいろな人がいっぱい来ていて緊ちょうした。でもちゃんと歌えてよかったです。みんなまあまあよろこんでくれてよかったです。

そして次の朝は家族の人にお礼を言って行こうとしたらマフラーと服とキーホルダーをもらいました。とてもいい人たちだと思った。そして車にのって別れをつけました。そこでは泣いている人もいてそれだけ僕たちのことを思ってくれたんだなあと思った。そしてシャンティ寮の人ともお別れをしました。

そして空港まで行くと、ちょっと疲れがでてきて腹もいたくなって病院に行って熱をはかってみるとちょっとあつても、点滴をすると治りました。そして関空につくと、熱があるとひっかかったけどぶじに帰れてよかったです。次いけたらもう一回行ってみたい。

タイに行って学んだこと

福原 隆人

今回僕は、初めてタイに行きました。行く前は何も分からない僕に、みんなはどう接してくれるのか不安でしたが、みんなとても優しく楽しい毎日でした。

まず最初に訪れたシャンティ寮は、小学生・中学生・高校生などが住んでいる寮です。



シャンティ寮の子ども達は、とても働き者です。朝早くから起きて、ごはんを作ったり洗濯をしたり清掃をしたり、田んぼも作っていて本当にすごいと思いました。それにスポーツも万能で、僕たちよりも小さい子どもでも、とてもスポーツがうまくてびっくりしました。バスケットやセパタクローやサッカーなどみんなでいっぱいやりました。楽しかったです。シャンティ寮の人たちは、とても優しく、僕を色々な所に誘ってくれました。シャンティ寮は2日だけでしたが、自分からも話やすくなり、多くの人と友だちになりました。写真もいっぱいとりま

した。

次にホームステイでは、お姉さんとお兄さんと子どもが3人いました。一番小さい子どもは、とてもかわいかったです。家の周りには、鳥などがたくさんいて、自然が多いと思いました。最初は僕は何をしていいのかわからなく、ホームステイ先の人も最初は戸惑っている感じだったけど、2日目ぐらいからは、しゃべれるようになりよかったです。家には、電化製品はテレビぐらいしかなく、ごはんなども火鉢のようなもので炊いていました。子ども達と一緒にバドミントンやボールあそびをしました。山も登りました。断崖絶壁の岩があったり、コウモリもいたり、洞窟もあってとてもきれいだったけど、帰りはとても大変でした。ホームステイが終わって帰るとき、僕が住んでいた家の人が、見送りにきてくれて最後まで本当に優しい人だと思いました。それに帰る僕にお弁当を持たせてくれました。朝早くから作ってくれたんだと思うと、嬉しかったです。

最後にスラムにも行きました。スラムの中はゴミが散らかってとても貧しそうでした。なぜそこに住むかという、バンコクに出稼ぎにきた人は、バンコクに住む家が無いのでこの土地に住むしか仕方ないということでした。バンコクは高いビルや店も多くて発展しているのに、こんなに貧しいところもあるのだと思いました。

タイに行って僕は、タイの人の優しさと思いやりを学びました。

2012年8月7日

とてもたのしかったタイ

室谷智紀

ぼくはタイにいろいろなことをしました。バンコクはゆたかだけど村にいくとまずいです。でも村の人たちはだいたいの方がやさしくすごしやすかったです。またいきたいです。

りょうもみんなやさしくすごくたのしかったし、かたことだけ日本語でしつもんしてくれてうれしかったです。空手もうまくいってうれしかったです。ものもおとしたけどとてもたのしかったです。

タイの子たちはうんどうがとてもうまくとくにサッカーがとてもうまかったです。ぼくもすこしサッカーをしたけどとてもうまかったです。たぶんぼくの中学校のサッカーぶよりサッカーがうまいです。

ぼくはタイでリスをたべたけど、からくてあじはよくわからなかったけどおいしかったと思う。ぼくは来年受験だけど受験を無視してきたいです。とてもたのしかったです。タイの子たちも一度日本にきてほしいです。またぼくも一度じゃなくて何十回もいきたいです。



タイ旅行感想文

吉田朋生

まずこのタイツアーとても楽しくまた行きたいと思いました。初めて体験することばかりで貴重な時間が過ごせました。

タイに行く前の飛行機の中、僕はだいぶ不安でした。初めての異国の地に降り立つドキドキ感がすごく不安に感じたのでしょうか。飛行機の中はとても寒くびっくりしました。初めてタイ語を聞いてテンションが上がるとともに「いよいよタイや」というドキドキ感もありました。そして飛行機はタイに向かいました。

そしてタイにつきました。空港の中で青いかみの毛の人とか。歳のわりにセーラー服を着てる人とか変な人がいて「タイって変だなあ」って思いました。その後空港からホテルに行きま



した。ホテルはトカゲだらけで不気味でした。夕食は外食でタクシー一台に7人無理矢理乗って食事する場所に行きました。これも日本では考えられない事で初めての経験でした。タイの料理は味が濃い物が多くすぐ腹いっぱいになりました。でもおいしかったです。ホテルに戻る時三輪車のバイクみたいなのに乗りました。運転が荒かったです。ホテルでテレビを見ているとドラゴンボールとか日本のアニメがやっていて感動しました。でもオリンピックをやっていなかったのは残念でした。

次の日はシャンティ寮に行きました。この寮での思い出はタイツアーの中で一番おもしろかったし、また行きたいと思う理由の一つです。寮生達と最初に触れあったのは公園でサッカーした時です。みんな運動神経のいい人ばかりでした。だからやりがいがあったとても楽しかったです。そして、このサッカーでだいぶ親睦が深められました。公園から寮に帰って夕食を食べました。食べている時となりの席の女の子に話しかけられたけど何言っているかわからなくて困りました。でもギップさんがくれたタイ語の本でコミュニケーションが取れました。自分が言いたいことが相手に伝わった時とてもうれしかったです。次の日は寮生たちが行っている学校に行きました。学校はすごく大きかったです。生徒の数も多かったです。全校集会みたいなのが終わって学校見学に行きました。いろんな教室がありました。最後に校長先生の部屋で話を聞きました。ぼくはねむかったのでもうとうとうとしてしまいとても失礼なことをしてしまいました。

その日の夜、寮生との交流がありました。こちら側は歌とリコーダと空手、タイ側はおどりや歌などでした。歌もおどりがかっこよかったです。こちら側のやつもうまく行ってとても盛り上がりました。よかったです。このように寮ではいろいろなことがありました。ここでの思い出は一生の宝ものになると思います。そしてまた行きたいです。

楽しかった寮とも別れて次は車で長いこと走ってモン族の村に行きました。モン族の村ではホームステイすることになっていました。そのホームステイ先の子どもが向かえに来てくれて家に行きました。家は思っている以上に広くペットもいっぱいいました。最初はあまり打ちとけられず気まずい感じでした。そしたらその子が辞書で「にゅうよく」と書いたところを指したので「やった、お風呂に入れる」と思いよろこびました。いざ風呂場に行ってみたら水しかなくてどうということかわかりませんでした。そのことについて聞いてみたら「水をかける」みたいなジェスチャーをされてびっくりしました。言われた通りに水をかぶってみるとやはり冷たくて気合で乗りきりました。

次の日はホームステイ家族とともに畑に行きました。畑までは山道を歩いたり川を横断したり約20分はかかりました。畑では農薬をまく作業をしていたけど僕は何もしませんでした。虫が多くていやでした。そのまま何もしないまま作業が終わり家に帰ることとなり「何で来たのだろう？」と思いつつ帰りました。その後はモン族の民族衣装を着て学校に行きました。学校ではモン族の人達との交流会が夕食を兼ねて行われました。こちら側のパフォーマンスは寮の時に並べて盛り上がりなかったけど楽しかったです。モン族のやつはおどりとかでした。交流会が始まる前にちょっとしたことをやらかしてしまったけど全然気にならないほど楽しい時間が過ごせました。次の日、楽しい時間も終わりホームステイ先の男の子ともお別れしなければならなくなりました。短い時間だったけどいろいろと面どうを見てくれたので悲しかったです。その後は確かバンコクに戻ってホテルにとまりました。次の日は出店がいっぱい並んでいるお祭り？みたいなのに行きました。物価が安いのでいろいろ安く買えました。よかったです。

このタイツアー本当にたくさんの事を経験し、学びました。この経験は一生の宝となりずっと心の中にあると思います。そしてこの経験を今後に生かせればいいと思います。また、このような機会を与えてくれた団体の方々に本当に感謝しています。そして、一緒に動行したギップさん、山下さん始め、たいが君、ムロ、たかと、けいたにはありがとうと言いたいです。また機会があれば参加したいです。



子どもツアーの日程

日程	内容	宿泊先
7月 29日(日)	関西空港発 11:45 バンコク着 15:35 (現地時間・以下同) 国内便 バンコク発 18:20 チェンライ着 19:40 ホテルチェックイン	ホテル泊
30日(月)	8:00 パヤオ県ポン郡シャンティ寮に向け自動車移動 10:00 シャンティ寮着 11:30 シップゾーンパタナー小・中学校 (奨学生のいる学校) へ出発、視察、見学 15:00 シャンティ寮へ出発 17:00 寮生と活動	シャンティ寮
31日(火)	5:30 寮生と活動 (運動、掃除など) 7:00 ポンラチャダーピセーク中高等学校へ寮生と登校、授業体験 12:00 学校で昼食 16:00 寮生と活動 20:00 文化交流会	シャンティ寮
8月1日 (水)	8:00 少数民族モン族の村、サンティスック村へ移動 10:30 村の保育園見学 13:30 ホームステイ先の子どもたちと出会う 子どもたちの下校後、ホームステイ先へ	ホームステイ
2日(木)	終日 ホームステイの家族と過ごす 農作業など	ホームステイ
3日(金)	8:00 ホームステイ家族と別れのあいさつ、村を出発 10:00 シャンティ寮に到着 12:00 チェンライ空港へ向け出発 チェンライ発 15:20 バンコク着 16:40	ホテル泊
4日(土)	9:30 クロントイのシーカーアジア財団事務所到着、地域の説明、 図書館での活動参加、ツアーの振り返り 14:00 観光など 18:00 夕食後、空港へ バンコク (スアンナプーム空港) 発 23:30	機内泊
5日(日)	7:00 (日本時間) 関西空港着	

シーカー・アジア財団主催「公開保育・研修会」開催

in タイ国・ターク県・メーソット市

松尾純代

シーカーアジア財団は、移住労働者の子どもたちが通う幼稚園、小学校での公開保育とそこで働く先生方を対象とした研修会を7月26日・27日に開催しました。

ミャンマーとの国境の県、ターク県には、タイの人々とともにミャンマーから合法的に働きに来ている約150万人と不法に働きに来ざるを得ない約150万人の人々が生活しています。

ターク県の中心市、メーソットに住むタイ人である人々の大半はカレン族であり、前述した合法・不法の移住労働者の多くもカレン族の人々で、もともと親類縁者の人々を頼って働きに来た人々であるのです。この街の生活文化は、タイ・ミャンマー・カレン族が入り混じり、言葉も3つの言語、店の表示もバイリンガルです。





この街の移住労働者のこどもたちの保育・教育は、タイ国籍ではないことからタイの学校には通うことはできません。また、こどもたちも働かなければ生活できないことから、幼稚園・小学校に通えていない子どもが大半です。こどもたちに保育・教育の保障を、と欧米を中心とするNGOが幼稚園・小学校を運営し、こどもたちの保育・教育保障に努力していますが、すべての子どもたちが通えるには至っていません。

シーカーアジア財団は、数年前から移住労働者のこどもたちの保育・教育現場への支援に取り組んでおり、この7月にも昨年を引き続く研修会が開催されました。私

は、昨年に引き続き研修会に参加しましたのでその報告をいたします。

7月24日

・朝8時、ワゴン車で140kmのスピードでターク県・メーソット市い向けバンコク出発して、午後4時現地に事務所到着。



昨年の研修会では予定していた参加者が集まらず、その原因は送迎がなかったことだと判明したのは研修会後の総括会議。移住労働者のこども達の学校は不便な所にあり、働く先生方もミャンマーからの移住労働者でもあり、軍隊や警察の検問に遭い嫌がらせを受けることが多くて自分たちだけの行動は怖くてできない、それを事前に把握できていなかったため、今年は、送迎の手配もばっちりです。

25日

・バンコクのスタッフとターク県のスタッフ、通訳（ミャンマー語・カレン語）のとの打ち合わせです。移住労働者の大半はタイ語を話さず、こども達の保育・教育はミャンマー語で実施されています。また、カレン族の方は、カレン語のみを話す方々もいます。保育・教育者も同様で、タイ語、ミャンマー語、カレン語と研修生の第1言語に応える通訳は研修会には必要なのです。

研修の内容は、身近なおもちゃを作ってそれで遊びをたのしむこと、集団で遊びを楽しむこと、絵本を楽しむこと3つをねらいに、1日目は、公開保育でこども達と一緒に活動し、見学した先生方と意見交換する。2日目は、1日目に参加した先生を含む研修生を対象に、作って遊び・みんなで遊ぶ体験する研修会です。

研修会の講師は、シーカーアジア財団のムアイさん・ギップさん・プラーさん、メーソット事務所のムサックさん、トンさんの5人で、そして通訳のマリーさんとともに朝8時ころから夕方まで研修内容のシュミレーション、打ち合わせをじっくり行っていました。



フーカーホンサー幼稚園・小学校公開保育開催 26日午前・午後

対象：こども3歳から10歳くらい 約70人

見学者：46人

・朝8時、私たちも車でフーカーホンサー幼稚園・小学校（ターク県が認知）へ、ハラッパの中にある木造の学校で、見学者が集まるのを待って9時20分から開始しました。

・見学者の車の送迎が予想以上に時間を要し、午後のセーターシン幼稚園・小学校については午後1時30分。こども達は座って待っており、急いで開始しました。

- ・子どもたちの人数（幼児から小学校高学年）は、学校から聞いていた人数より多く、午前は 20 人増え 70 人、午後は 40 人も増え 110 人でした。原因は、子ども的人数が確定しておらず、なにかイベントがあると普段の子ども数以上が集まるとのことでした。
- ・予想以上の子ども的人数に驚きながらも活動内容や場所を工夫し活動しました。午前午後とも手品で子どもの興味をぐっと引きつけ、手作りおもちゃ・集団遊びと子どもたちは大喜び、大歓声が響いていました。
- ・それを見学する見学者の目も子ども達にひきつけられており、活動後の意見交流会で「子どもの楽しいそうな顔が印象的」「ほとんど学校では遊びがないので、こんな活動が求められている」「遊びながら学べる活動」だと評価していました。

セーターシン幼稚園・小学校公開保育開催 27日保育・教育者研修会

対象：2歳から12歳くらい 約100名

見学者：16人

- ・公開保育に引き続き参加した保育・教育者 56 人が朝 8 時ころから集まっての研修会です。昨日公開保育の参加者のうち数人はシーカーアジア財団のメソット事務所に宿泊です。夜遅く帰って、朝早く来るのは大変なのでとのこと。積極的参加の姿勢が素敵です。



- ・研修内容は、最初に絵本の楽しさを共有してもらおうと選書した絵本（研修会終了後に現場に提供する 30 冊）を読み聞かせます。そして公開保育で活用した教材と一緒に作る、その教材で遊ぶ。集団あそびを一緒に楽しむというスケジュールです。どの先生も一生懸命で、また楽しそうに研修に参加し、終わったのは 17 時。



- ・研修会最後にシーカーアジア財団として、遊びのなかで学ぶことの大きさ、友達と楽しさを共有する大事さを研修生に伝え、研修会を終わりました。

24 日からずっと行動を共にしてきた私は、公開保育・研修会をやり遂げたシーカーアジア財団の講師たちの姿を 4 年間ともに活動してきた大阪の保育者たちに見てもらいたいと思いました。また、シーカーアジア財団には研修会講師依頼が次々届いているそうです。



4 年間の大阪マイペンライとシーカーアジア財団とが遊びの大切さを伝えようと取り組んできたことが、徐々に実を結びつつあります。そんな活動ぶりをシーカーアジア財団の研修情報センターのニューズレターでより一層タイ各地に届けることで知名度が高まることを期待したいです。

最後にシーカーアジア財団からのお願いです。

「ボランティア貯金の基金を活用しての事業は終わりましたが、シーカーアジア財団としての遊びの大切さを伝える活動はますます広がっています。ど

うぞ日本の保育・教育関係者の皆様、タイの保育・教育者にいろんなことを教えに来てください」